

あま（天間）

江戸時代（1603—1867）は、住居の設計、装飾、大きさは、階級ごとに定められていました。原則として、足軽（歩兵）の住居は1階建てでした。しかし、1階建て住宅では限られた収納スペースしかないので、多くの足軽は屋根裏のスペースを利用するようになりました。このスペースは「あま」と呼ばれました。冬は、ここは薪の貯蔵場所として利用されました。規則上、家は1階建てにしなければならないとされていましたが、中にはこのスペースに畳を敷いて追加部屋として利用した家族もあったようです。壁に取り付けられていた梯子は、家族のあまへの出入りを容易にしました。